

令和6年度中国・南昌市への青少年訪問団派遣事業 事後報告書

◆名前： 坂本 歩希

江西省及び南昌市に滞在中の様子や本事業で得たこと、感想等をご記入ください。
(1,000字程度)

今回の中国南昌市への青少年交流派遣事業を通して、南昌市の歴史、両市の交流についてのお話を友好会館の方からお聞きする事ができました。私が思っていたより南昌市と高松市の友好関係は深い絆で結ばれていると感じました。昔からの中国との関わりを知ることで、これまでに築き上げてきた友好関係をこれからも大切にすること、これから先も友好関係を深めることが大切であると強く受け止めることができました。

初めは日本とは異なる文化の国で1週間を過ごすことに対して少し不安などがありました。しかし、日本語が中国語から作られた歴史的背景もあり、なんとなく読み取れそうだと感じ、不安が和らぎました。また、ジェスチャーなどを使って伝えたい事を伝えようと努力する事で相手も分かりやすく伝えようとしてくれる中国の方の優しさに触れることができました。

国の数だけ、それ以上に文化があり、文化によっては真反対の考えの文化があってもおかしくありません。その上で必ず必要となるものはお互いを否定するのではなく理解するということだと感じました。文化が異なると価値観も異なる事があるため、不安になったりすることもあると思います。ですがそれは育った環境が違うため、当たり前のことであり、否定から入るのではなく、相手のことを理解するということが大切だと思いました。また、違った言語であっても頑張って相手に理解してもらおうとすれば言語の壁をのりこえることもできるのではないかと思います。

今回、中国と日本の文化の相違点を発見できたこと、事業を通してたくさんの方と交流できたことは、これから先も私にとってかけがえのないものになると思います。今まで以上に国際関係についてアンテナを張り巡らせ、他の国との相違点を見つけるためにも実際に訪れてみたいと考えています。

最後になりましたが、今回のような貴重な経験を得る事ができる事業を計画、実施して下さった南昌市、高松市、及び関係者の皆様に深く感謝いたします。